TOP MUSEUM

東京都写真美術館ニュース eyes102

エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク
インターネットアートへの再接続

TOPコレクション 琉球弧の写真

生誕100年 石元泰博写真展
生命体としての都市

eyes TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
NEWS MAGAZINE / 2020 Vol.102

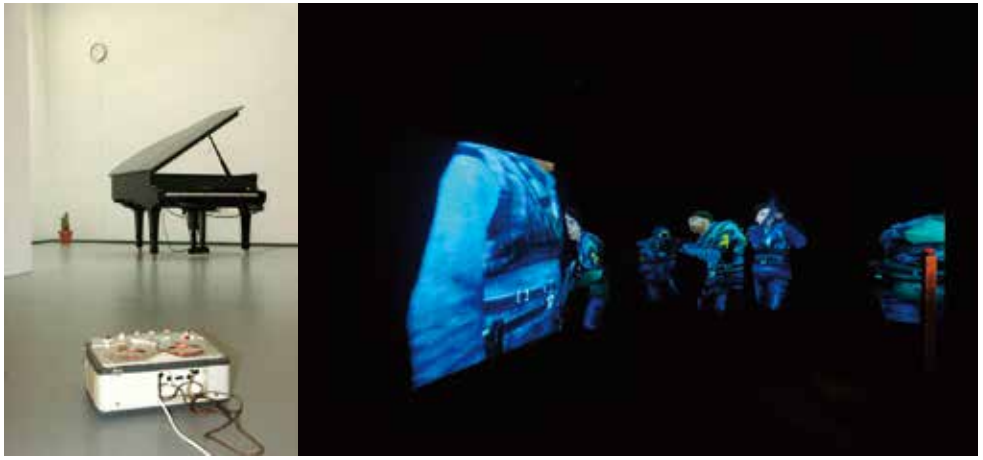
INTERVIEW

エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク

インターネットアートへの再接続

exonemo: UN-DEAD-LINK ; Reconnecting with Internet Art

2020.8.18|火|-10.11|日|



《UN-DEAD-LINK》2008年 作家蔵[参考図版](左) photo:Stefan Holenstein, courtesy of [plug.in], Basel

《Heavy Body Paint》2016年 東京都写真美術館蔵

エキソニモ exonemo

1996年に結成された千房けん輔と赤岩やえによる日本のアート・ユニット。2006年、世界最大のメディアアート・フェスティバル「アルスエレクトロニカ」において《The Road Movie》がゴールデン・ニカ(大賞)を受賞。近年の主な展覧会に、「あいちトリエンナーレ2019」愛知芸術文化センター(名古屋、2019年)「SUNRISE/SUNSET Artport」Whitney Museum website(ニューヨーク、2019年)、「ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて」水戸芸術館(茨城、2018年)、「メディアアートの輪廻転生」山口情報芸術センター[YCAM](山口、2018年)、「エキソニモの「猿へ」」三菱地所アルティアム(福岡、2013年)など。2015年よりニューヨークを拠点に活動。 **http://exonemo.com**

何か遊び場みたいなものを作る感覚で

── エキソニモにとってのインターネットアートのはじまり

千房:そもそも僕らはインターネットから活動を開始した最初の世代だと思っているんですよ。多分今の若い人たちは、インターネットから活動を開始するのは当たり前な状況ですけれど、僕らの時は初めからインターネットというのはほとんどいない。基本的にインターネットが普及し始めた最初の頃で、オフラインで何かしらの活動をしていた人たちが自分の活動をインターネットに持ち込むパターンはあっても、インターネットから作品を作り始めることは少なかったですね。だから今のネットアートの感覚と、自分たちの感覚は、全然違うものなのかなと思っています。

赤岩:1996年から1999年くらいまでの制作を始めた頃は、インターネットアートというムーヴメントを知らないでやっていました。とにかく、インターネットを使ってできる新しい何かがありそうだというので、何だかわからない、最初の時点では作品とも思わない、何か遊び場みたいなものを作る感覚でやっていました。

── 新作《UN-DEAD-LINK 2020》について

千房:元々はスイスの[plug.in]というギャラリーで2008年に個展があった時に制作した作品です。
作品を作るアイディアの元になったのが、いつだったかわからないけれど、昼間に吉祥寺を2人で歩いていた時に、いきなり停電になって。まずコンビニが暗くなって、よく見ると、街全体が停電していたことがあって。後で知ったところによると、自衛隊の航空機が送電線に突っ込んで、その事故の影響で東京の街が停電になったことを知ったんです。その時に思ったのが、航空機が突っ込んで事故になったということは、乗っていた人は死んだわけで、その死んだ瞬間を自分が体感する結果になった。その人の死の瞬間を何万世帯の多くの人たちが体感したことに、すごく驚いたというか不思議な感覚がしたんです。(…)人が死ぬような出来事は、普通はパーソナルな経験で、僕は2006年に父親を亡くしているのですが、身近な人が亡くなるのは、物凄くショッキングな出来事だけど、遠くの場所にいる人の死が、ただの数字になって、何十人何百人死にましたとなると、全くリアリティが感じられない。そのギャップが気になって、ゲーム空間の中で死ぬこと、現実空間の中でそれに反応することを再現しました。今回特にコロナ危機下では、また同じような状況で、何人死んだ、今日は何十人感染したと数字だけがバンバン出てきたのですが、ロックダウン中に、それだけの人が死んだことを、リアルには感じられなかったわけです。

《Fireplace》2014年 東京都写真美術館蔵

だから同じような状況で、《UN-DEAD-LINK》が急浮上してきて、今回は新作を作ろうという話になり、展覧会のメインタイトルにもなってきました。

── 新作《Realm》について

千房：NYがロックダウンになって、コロナウイルスの感染者も、死亡者もアメリカが世界一多い状況になってきた中で、近所にある、グリーンウッドセメタリー（Green-Wood Cemetery）という広大な墓地に、ほぼ毎日のように、散歩に行っていたんです。そこは緑が豊かな自然の中に墓石があるというギャップがあって、大自然と、人間が人工的に作った墓石、二つの全く異なったものが共存している環境です。そこに行くと、人と会うこともほぼないし、ウィルス感染という面でも安全な場所で、遠くにはマンハッタンのビル群が見えて、ウィルスで大騒ぎして人間の社会がすごく不安定になっているけれど、自然は何も変わっていなくて、それですごく心が救われていました。（…）加えてウェブの技術的な話で、スマートフォンと同じアドレスを、ウェブブラウザで開くとリッチな画面が出てきて、スマホで開くと簡略化された画面になって、スマホで見るときは主観的で視野も狭まっているし、ブラウザで見ると客観的に広く見えるみたいな、同じ空間でも、全然違う見え方をしている、その二つの領域の中間地点みたいなものが気になってたんですよ。だから全てにおいて、ロックダウンの中で、いろんなものの間にある中間地点みたいなことが、頭に浮かんで、ちょうどその時にネットアートをまたやりたいっていう希望も出てました。

聞き手＝田坂博子
（2020年6月13日夜［NY］／6月14日午前［東京］
展覧会公式ガイドブック掲載のオンラインインタヴューより抜粋）

1）《Realm》2020年 HeK_Basel 委嘱作品 作家蔵
※表紙は部分 exonemo.com/realm
2）《FragMental Storm》［Installation version］2007年 作家蔵
3）《DISCODER》1999年 作家蔵

1

2

3

エキソニモ　UN-DEAD-LINK　アン・デッド・リンク

インターネットアートへの再接続

exonemo: UN-DEAD-LINK ; Reconnecting with Internet Art

B1F 2020.8.18｜火｜－10.11｜日｜

インターネットが一般に普及し始めた1990年代から、いち早くインターネットそのものを素材として扱い、ユーモアのある切り口と新しい視点を備えた作品でインターネットアート、メディアアートを軸足に、アートの領域を拡張してきたエキソニモ。エキソニモは、現在ニューヨークを拠点として活動する千房けん輔と赤岩やえによる日本のアート・ユニットで、デジタルとアナログ、ネットワーク世界と実世界を柔軟に横断しながら、実験的なプロジェクトを数多く手がけてきました。本展では、24年間に及ぶその多彩な活動を、初期のインターネットアートから本展で初公開される新作《UN-DEAD-LINK 2020》を含む近年の大型インスタレーションまでの作品群によって構成し、展覧会場とウェブ上に構築したインターネット会場とを連動させ、エキソニモの全活動の軌跡に迫ります。

本展のテーマである「UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク」には、インターネット上で接続できなくなった、リンク先が存在しない「デッド・リンク DEAD-LINK」の作品を再考し、「アン・デッド・リンク UN-DEAD-LINK」として、アクセス可能にするという意味がこめられています。新型コロナ禍によって、世界中の景色が一変し、人間同士の物理的な距離をだれもが意識せざるをえない現在、オンラインとリアルを自由に横断してきたエキソニモの活動を考察することで、メディアの歴史のみならず、今日的な表現のあり方、そして人やモノとのつながり方の未来と新たな可能性を探求していきます。

［主催］東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／日本経済新聞社
［助成］令和2年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業
［観覧料］一般700円 ほか 各種割引あり

森山大道の東京 ongoing

Moriyama Daido's Tokyo: ongoing

3F 2020.6.2｜火｜－9.22｜火・祝｜

〈Tokyo Boogie Woogie〉より 2018年 作家蔵
©Daido Moriyama

スナップショットの名手として知られる、日本を代表する写真家・森山大道。1960年代に写真家として活動を開始し、その作風は「アレ・ブレ・ボケ」と形容され、写真界に衝撃を与えました。以来、世界各国の美術館での大規模展、2019年のハッセルブラッド国際写真賞をはじめとする数々の国際的写真賞の受賞など、デビューから55年を経た現在もなお世界の第一線で活躍し続けています。

森山が写真家としての活動を始めたのは、東京オリンピックの開催された1964年。当時より、森山は一貫して東京という都市のさまざまな様相をカメラでとらえつづけ、現在も継続中です。被写体である国際都市・東京もまた、常に新しいものを取り入れ変化し、今なお進化し続けています。

本展では、「ongoing＝進行中、進化し続ける」をテーマに、今なお疾走し続ける森山大道がレンズを通してとらえ続けてきた街・東京を、カラーとモノクロの最近作を中心に展観します。尽きることのない森山大道の写真の魅力をどうぞお楽しみください。

［主催］東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞　［協力］写真弘社
［観覧料］一般700円ほか 各種割引あり

1Fホールで『過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい 写真家 森山大道』を上映
［日程］9.12（土）、13（日）、19（土）、20（日）詳細はP11へ

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

あしたのひかり　日本の新進作家vol.17

Twilight Daylight: Contemporary Japanese Photography vol.17

2F 2020.7.28｜火｜－ 9.22｜火・祝｜

東京都写真美術館では、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するとともに、新たな創造活動を紹介する場として、「日本の新進作家」を2002年より開催しています。第17回目となる2020年度は「象徴としての光」と「いまここを超えていく力」をテーマに、写真・映像をメディアとする5組6名の新進作家たちを紹介します。

社会の急激な変化の中にあるいまこの時代は、既存のモデルやこれまでの価値観が揺らいでいる時代でもあります。先行きが不透明な時代の中で、いつしか人々が確かな未来像を心に描くことや、大きな希望を抱くことは難しくなってきているのかもしれません。ときに美術はそうした時代にあって人に光を、さらに複雑な物事を見通す直感的な力や明日への活力をも与えてくれるはずです。「光」は写真・映像メディアの本質要素であるとともに、人々の日常に遍在するもの、また希望の象徴でもあります。本展の出品作家たちは、「光」を重要な要素としているだけではなく、自身を取り巻く世界の在りようについて独自のヴィジョンを持ち、それを視覚作品として私たちに提示してくれます。これらの作品は、ただ現実を鏡のように写し出すだけではなく、いまここにあり刻々と変貌していく世界をどのように感じ取るのかという世界観を表しています。それらは見る人の心に様々に共鳴し、未来への洞察や生きる力を呼び覚ましてくれるかもしれません。5組6名の新進作家たちの写真・映像作品を通して、光に満ちつつも不確かでもあるこの世界からその向こう側にある未来へと、いまここを超えていく力を感じ取っていただければ幸いです。

赤鹿麻耶〈氷の国をつくる〉より 2020年 作家蔵

赤鹿 麻耶 Akashika Maya

1985年、大阪府生まれ。2008年関西大学卒業。10年ビジュアルアーツ大阪写真学科卒業。11年作品〈風を食べる〉で第34回写真新世紀グランプリ受賞。大阪を拠点に海外を含む各地で個展、グループ展を開催。夢について語られた言葉、写真、絵や音など多様なイメージを共感覚的に行き来しながら、現実とファンタジーが混交する独自の物語世界を紡ぐ。本展では、子供の時の心のときめきや時空を超えた感覚を追い求める旅を描いた新作シリーズ〈氷の国をつくる〉を初公開する。

菱田雄介〈border〉より 2013年 作家蔵

菱田 雄介 Hishida Yusuke

1972年、東京都生まれ。写真家・映像ディレクターとしてボーダー（境界線）が日常生活にどのような影響を与えるかをテーマに、国境や紛争地域を取材したドキュメンタリー写真を手がける。2008年および10年写真新世紀展佳作入選。17年に南北朝鮮の人々をとらえた写真集『border|korea』（リブロアルテ）を発表、コンセプチュアルで象徴的な表現によって大きな評価を得た。本展では、マスメディアの情報からこぼれ落ちる何気ない人物の姿に焦点をあてた映像作品シリーズ〈30sec〉他、作家が世界各地で撮影したポートレイトを中心に展示する。

岩根愛《Tenshochi, Kitakami, Iwate》〈あたらしい川〉より 2020年 作家蔵

岩根 愛 Iwane Ai

1975年、東京都生まれ。1991年米ペトロリアハイスクール留学。帰国後96年に独立。2006年以降ハワイにおける日系文化に注視する。13年福島県三春町に拠点。移民を通じたハワイと福島の関わりをテーマに制作を続ける。18年写真集『KIPUKA』（青幻舎）を出版。19年第44回木村伊兵衛写真賞、第44回伊奈信男賞をダブル受賞。ドキュメンタリー映画『盆唄』（中江裕司監督作品、2019年）のアソシエイト・プロデューサーも務める。本展では、13年以上にわたって継続する代表作〈KIPUKA〉につづく、初公開の新作シリーズ〈あたらしい川〉を展示する。

原久路&林ナツミ《三つ子ごっこ（めいは、よつば、さくら）》〈世界を見つめる〉より2019年 作家蔵

原 久路＆林 ナツミ Hara Hisaji & Hayashi Natsumi

2013年結成。原久路（1964年、東京都生まれ）と林ナツミ（1982年、埼玉県生まれ）による写真家ユニット。2011年以降〈本日の浮遊〉の共同制作を経て、14年東京から九州へ移住、大分県別府市を拠点に活動。コラボレーション作品を制作、発表する。SNSを中心に発表される〈世界を見つめる〉は、子供から大人へと成長する過程にある無名の少女たちを被写体として、彼らの自由な行動や発想から生まれるポートレイトと地元・別府の都市風景からなる作品シリーズである。

鈴木麻弓〈The Restoration Will〉より 参考図版 2017年 作家蔵

鈴木 麻弓 Suzuki Mayumi

1977年、宮城県生まれ。出品作品〈The Restoration Will〉は「復元の意志」の意。ここでは2011年の東日本大震災による津波で被災した故郷・女川町の風景が、写真館を営んでいた実父の遺品レンズを通して写し出される。自身の幼少期の家族アルバムからの傷ついた写真が効果的に挿入されるなど巧みな編集によって作品は強靭なメッセージ性を持っている。17年Photobooxグランプリ受賞（イタリア）、18年PHOTO ESPANA International Photography Book of the Year受賞（スペイン）など欧州の写真アワードで大きく評価された注目シリーズを展示する。

[主催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞 [助成] 芸術文化振興基金 [協賛] 東京都写真美術館支援会員
[観覧料] 一般700円ほか 各種割引あり

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

生誕100年 石元泰博写真展
生命体としての都市

Ishimoto Yasuhiro Centennial: The city brought to life

2F 2020.9.29|火|－11.23|月・祝|

《シカゴ 街》1959-61年頃 東京都写真美術館蔵

東京都写真美術館では、「都市」への視線を核としてシカゴや東京の街、人々の風景やポートレイト、建築写真、色彩豊かな多重露光など、ミッドキャリアから晩年に至る作品を中心に写真家・石元泰博の時を超える孤高のまなざしを展覧します。

1983年に紫綬褒章、1993年に勲四等旭日小綬章を受章し、1996年に文化功労者となった写真家・石元泰博（1921-2012）。石元は、モダンデザインの思想をシカゴで学び、その厳格な画面構成と造形意識から、日本にとどまらず国際的に高い評価を得ています。

都市と人間のあり方を問いかけるシカゴや東京のシリーズ、半世紀余りを共に歩んだ多重露光によるカラー作品のシリーズ、晩年に取り組んだ〈刻〉や〈シブヤ、シブヤ〉など、石元が手掛けた仕事は多彩を極めます。

石元の写真家としての確固たる意志や被写体への鋭いまなざし、撮影に対する飽くなき探究心は「カメラを持った古武士のまなざし」とも賞されます。

2021年の生誕100年を祝し、3つの美術館の共同企画で展覧会を開催し（東京は2会場で同時期開催、十代を過ごした高知では2021年1月～3月）、その多彩な仕事を過去最大規模のスケールで俯瞰、写真家・石元泰博による唯一無二の視点を詳らかにします。

1

石元 泰博
（いしもとやすひろ）
1921-2012

1921年アメリカ合衆国サンフランシスコに生まれる。3歳のとき両親の郷里である高知県に戻り、1939年高知県立農業高校を卒業。同年に渡米し、終戦後は、シカゴのインスティテュート・オブ・デザインで、写真技法のみならず、石元作品の基礎を成す造形感覚の訓練を積む。1956年川又滋子と結婚。1969年に日本国籍を取得。丹下健三、磯崎新、内藤廣など日本を代表する建築家の作品を多く撮影していたことでも知られる。1983年に紫綬褒章、1993年に勲四等旭日小綬章を受章、1996年に文化功労者となる。

[主催] 東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会 [協賛] ライオン／大日本印刷／損保ジャパン／日本テレビ放送網 [共同企画] 高知県立美術館／東京オペラシティ アートギャラリー
[観覧料] 一般700円ほか 各種割引あり

…結果がどうなるかわからないものに、挑み続けるのはしんどいけれど、面白い。だから、やめられない。

（石元泰博『色とかたち』（平凡社、二〇〇三）より）

2

3

4

5

生命体としての"都市"の記録…そこに見えてくるのは、あくまでも明晰でありながら、驚くべきエネルギーを内包し、どこかミステリアスな雰囲気を漂わせる、石元にとっての根源的な"都市"のイメージといえるだろう。

（飯沢耕太郎『『造形』を超えて―石元泰博の軌道』、『石元泰博（日本の写真家26）』（岩波書店、一九九七）より）

関連開催スケジュール

東京オペラシティ アートギャラリー	高知県立美術館
2020.10.10（土）-12.20（日）	2021.1.16（土）-3.14（日）

東京オペラシティ アートギャラリー「生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代」との相互割引

東京オペラシティ アートギャラリーの企画展「生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代」（10/10-12/20）の入場券をご提示いただくと、本展入場券が通常料金より2割引になります（他の割引との併用不可、ご本人様1回限り有効）。また「生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代」へご入場の際に本展入場券をご提示いただいた場合は割引料金（200円引き）になります。なお、割引の際には各館で先着10,000名様に特製ポストカードをプレゼントいたします。

東京オペラシティ アートギャラリー https://www.operacity.jp/ag/
TEL 03-5777-8600（ハローダイヤル）

1）《セルフ・ポートレート》1975年 高知県立美術館蔵
2）《東京 街》1964-70年 東京都写真美術館蔵
3）《シブヤ、シブヤ》2003-06年 高知県立美術館蔵
4）《人の流れ》2001年 高知県立美術館蔵
5）《桂離宮 中書院東庭から楽器の間ごしに新御殿を望む》1981-82年頃 東京都写真美術館蔵

すべて©高知県，石元泰博フォトセンター

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

TOPコレクション
琉球弧の写真

TOP Collection:
Photography in the Ryukyu Islands

3F 2020.9.29|火|－11.23|月・祝|

「TOPコレクション」は東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。本展では、「琉球弧の写真」と題し、35,000点を超える当館コレクションの中から、新規収蔵作品を中心に、沖縄を代表する7名の写真家（山田實、比嘉康雄、平良孝七、伊志嶺隆、平敷兼七、比嘉豊光、石川真生）の多種多様な写真表現を紹介します。

沖縄は、日本の他の地域とは異なる風土や歴史を背景に、独自の文化を育んできました。本展出品作品の多くは、1960年代から70年代にかけての沖縄で撮影されています。市井の人々の暮らしや、大きなうねりとなった復帰運動、古くから各地に伝わる祭祀などを写した作品は、それぞれの写真家にとって、キャリア初期の代表作となっています。

沖縄に暮らし、沖縄にレンズを向けた7名の写真家の作品には、本島のみならず、琉球弧（奄美群島から八重山列島にかけて弧状に連なる島々）全体を見据えたまなざしがあり、様々な角度から、この土地固有の豊かさと同時に、沖縄が直面する困難を写し出しています。

本展はこれまで沖縄県外の公立美術館で紹介されることが少なかった、沖縄を代表する写真家の作品を網羅的に紹介する初の展覧会です。本展が、琉球弧の多様な文化や島々の歴史を今に伝える出品作品を通して、沖縄について思いをめぐらす機会となれば幸いです。

平良孝七《74・8 多良間村水納島》〈バイヌカジ〉より 1974年 名護市蔵

平敷兼七《火葬場 南大東》1970年

山田實《手をつないで 糸満漁港》1960年

比嘉豊光《コザ暴動》〈赤いゴーヤー〉より 1970年

石川真生〈赤花 アカバナー 沖縄の女〉より 1975-77年

比嘉康雄《本土集団就職 那覇港》〈生まれ島・沖縄〉より 1970年

伊志嶺隆《星立》〈光と陰の島〉より 1987年

※所蔵先の記載がない作品はすべて東京都写真美術館蔵

出品作家

平良 孝七 Taira Koshichi（1939－1994）

1939年、沖縄県大宜味村生まれ。58年、辺土名高校卒業。76年、『平良孝七写真集 パイヌカジ〈記録1970年～1975年〉』（私家版）を刊行。翌年、同書により、第二回木村伊兵衛写真賞を受賞。没後の2002年、「沖縄を見続けた写真家 平良孝七の世界」（名護市民会館ほか）が開催。

平敷 兼七 Heshiki Kenshichi（1948-2009）

1948年、沖縄県今帰仁村生まれ。71年、東京綜合写真専門学校卒業。2008年、個展「山羊の肺 沖縄1968–2005年」（銀座・大阪ニコンサロン）、を開催し、同展で第33回伊奈信男賞を受賞。没後の17年、「平敷兼七写真展 沖縄、愛しき人よ、時よ」（東京工芸大学写大ギャラリー）が開催。

山田 實 Yamada Minoru（1918－2017）

1918年、兵庫県生まれ。41年、明治大学卒業。従軍を経て、52年に那覇で写真機店を開業。59年、沖縄ニッコールクラブを結成。2002年、『こどもたちのオキナワ 1955－1965』（池宮商会）を刊行。12年、沖縄県立博物館・美術館で「山田實展 人と時の往来」が開催。

比嘉 豊光 Higa Toyomitsu（1950－）

1950年、沖縄県読谷村生まれ。75年、琉球大学卒業。97年、「琉球弧を記録する会」設立。2001年、『光るナナムイの神々』（風土社）、04年、『赤いゴーヤー』（ゆめあーる）刊行。10年、佐喜眞美術館で「骨からの戦世―65年目の沖縄戦 比嘉豊光展」が開催。12年、『全軍労・沖縄闘争』（出版舎Mugen）刊行。

比嘉 康雄 Higa Yasuo（1938-2000）

1938年、フィリピン生まれ。58年、コザ高校卒業。警察署勤務後、東京写真専門学院で学ぶ。71年、個展「生れ島・沖縄」（銀座ニコンサロン）開催。93年、『神々の古層』（全12巻、ニライ社、89～93年）で日本写真協会賞年度賞受賞。没後の2010～11年 、「母たちの神―比嘉康雄展」（沖縄県立博物館・美術館、IZU PHOTO MUSEUM）が開催。

石川 真生 Ishikawa Mao（1953－）

1953年、沖縄県大宜味村生まれ。82年、『熱き日々inキャンプハンセン！！』（共著、あーまん出版）刊行。2013年、横浜市民ギャラリーあざみ野で個展「写真家 石川真生―沖縄を撮る」が開催。17年、『Red Flower: The Women of Okinawa/赤花 アカバナー 沖縄の女』（Session Press）刊行。19年、日本写真協会賞作家賞受賞。

伊志嶺 隆 Ishimine Takashi（1945－1993）

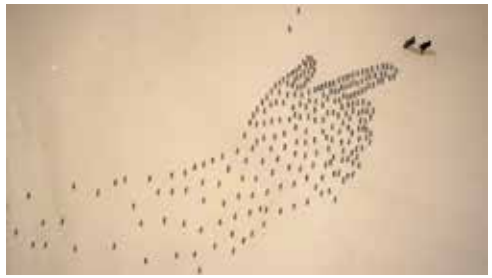
1945年、台湾生まれ。65年、那覇商業高校卒業。88年、銀座ニコンサロンで個展「光と陰の島」開催。90年、那覇市民ギャラリーで個展「72年の夏」開催。没後の2011年、同所で「伊志嶺隆写真展 島の陰、光の海」が開催。19年、「伊志嶺隆と平敷兼七」（沖縄県立博物館・美術館）が開催。

［主催］東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館　［助成］公益財団法人ポーラ美術振興財団
［観覧料］一般600円ほか　各種割引あり

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

写真新世紀 2020
NEW COSMOS OF PHOTOGRAPHY

B1F 2020.10.17|土|-11.15|日|



中村智道 新作「Ants」より

「写真新世紀」は、1991年の発足以来、国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出、新人写真家の登竜門として広く知られています。今年は43回目の公募を実施。過去最高の応募となった2,002人の中から厳正な審査を経て、優秀賞7名、佳作14名が選出されました。本展では、それら受賞作品をご紹介するほか、昨年度のグランプリ受賞中村智道さんの新作個展「Ants」も開催します。

グローバルに展開し進化する写真新世紀。力強い受賞作品の数々をぜひご高覧ください。

[主催] キヤノン株式会社
[共催] 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
[観覧料] 入場無料
〈お問い合わせ〉キヤノン 写真新世紀事務局 03-5482-3904
〈公式サイト〉https://global.canon/ja/newcosmos/

図書室

写真集を中心に、展覧会カタログ、写真と映像に関する図書、専門雑誌など国内外の資料を11万2千冊以上所蔵しています。当室の所蔵資料の閲覧を希望する方はどなたでも、無料で利用できます。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在、図書室のご利用は、**2時間ごとの定員入替制(最大8名)**としています。

当日定員に余裕がある場合は、図書室内の検索端末を使い、見たい資料を探してご利用いただけます(3冊まで)。見たい本がわからない…そんなときも司書がお手伝いいたします。

ご利用時に確実に閲覧したい資料がある場合は、事前のご予約をお勧めいたします。
※予約方法の詳細は当館ホームページの図書室〈ご利用案内〉をご確認ください。

最新の上映スケジュールはこちら▶

1F 過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい 写真家 森山大道

©『過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい』フィルムパートナーズ

2018年秋、世界最大の写真の祭典「パリ・フォト」で伝説の写真集が半世紀ぶりに甦った。写真家のまわりは黒山の人だかり。ていねいな文字で〝森山大道〟とサインする姿を、世界中から集まったファンが、熱いまなざしで見つめている。熱狂の列は途絶えることなく、人々は次々に押し寄せてくる。いったい何が起こっているのか――。

2018年春、森山のデビュー作『にっぽん劇場写真帖』復刊プロジェクトが始まった。1968年に誕生したこの写真集は、コレクターの間で高額で取引されるのみで、その全容が一般の目に触れることはほとんどない。あの傑作をもう一度出版したい。そう言い出した2人の男がいる。1人は、継続的に森山の写真集を世に送り出してきた編集者・神林豊。もう1人は、森山作品を含め、多くの写真集を手がける造本家・町口覚。敬愛する森山の処女作を決定版として世に送り出すべく、2人の奮闘が始まる。

[上映期間] 9.12(土)、9.13(日)、9.19(土)、9.20(日)
[料金] 一般1,500円/学生1,000円/シニア・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方1,000円 各種割引なし

〈お問い合わせ〉
プレイタイム　e-mail. yosaito@playtime-movie.jp
〈公式サイト〉https://daido-documentary2020.com

3F展示室では「森山大道の東京 ongoing」展を9月22日(火・祝)まで開催しています。上映とあわせて展覧会もお楽しみください。

1F 衝動 ― 世界で唯一のダンサオーラ ― ロシオ・モリーナLIVE ― カイーダ・デル・シエロ

『衝動 ―世界で唯一のダンサオーラ―』
85分/フランス、スペイン/カラー/スペイン語

伝説のバレエダンサー、ミハイル・バリシニコフがパフォーマンスに感動し、彼女のもとに脆いた―

進化し続ける唯一無二の天才が生み出す、フラメンコの伝統と舞台芸術の革新が融合した驚異のステージ。ダンスに魅せられ、ダンスを追及し続けるロシオ・モリーナの創作活動の舞台裏に迫る!

『ロシオ・モリーナLIVE―カイーダ・デル・シエロ』
97分/スペイン語

ドキュメンタリー映画『衝動―世界で唯一のダンサオーラ』で、その舞台裏を追っていた、ロシオ・モリーナによるパリのシャイヨー国立舞踊劇場での公演のライブ映像。天から落ちてきた女性の旅がテーマの本作で、ロシオは自身のルーツに深く迫った。本作で、第19回英国批評家協会賞(ナショナル・ダンス・アワード)にて「OUTSTANDING FEMALE MODERN PERFORMANCE」賞を受賞した。

〈お問い合わせ〉トレノバ　TEL.03-6407-1931
〈公式サイト〉https://impulso-film.com

[上映期間] 2020.9.12(土)-9.25(金)
[休映日] 2020.9.14(月)、9.23(水)
[料金] 当日券(各作品):一般1,800円/学生1,500円/シニア・中学生以下・障害者手帳をお持ちの方1,100円
各種割引あり

各種割引
以下を提示いただくと、当日一般料金が割引になります。
当館年間パスポート、当館での展覧会・映画の半券、MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)、MIカードプラス(MIカード(スタンダード)除く)、JREカード(アトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)、(公財)東京都歴史文化財団が管理する施設の友の会会員証・年間パスポート

1F ベートーヴェン生誕250年/バーンスタイン没後30年 バーンスタイン&ウィーン・フィル　ベートーヴェン全交響曲シネコンサート

©Unitel

〈お問い合わせ〉
楽画会(がくがかい)
TEL.03-3498-2508
(平日9:30-17:30)
〈公式サイト〉
www.gakugakai.com/9

至高の名演、全9交響曲を一挙上映!
名指揮者レナード・バーンスタインとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による、白熱のコンサート収録映像をスクリーンで!

バーンスタインが、その円熟期にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と取り組んだベートーヴェンの全交響曲演奏会は、今に聴き継がれる至高の名演と言われています。

ウィーン楽友協会大ホールをはじめウィーンが誇る世界的な劇場で収録された、その歴史的なライブ映像、全9交響曲を劇場のスクリーンで一挙上映します。

全9曲を5つのプログラムに編成して、各日3プログラムを上映
※上映スケジュールなど詳細はホームページをご確認ください。

上映プログラム
【A】1番 & 3番「英雄」　【B】2番 & 5番「運命」　【C】4番 & 6番「田園」
【D】7番 & 8番　【E】9番「合唱付」

[上映期間] 2020.12.1(火)-12.18(金)
[休映日]
2020.12.7(月)、12.12(土)、12.14(月)

[料金] 当日券(1プログラム)2,800円 各種割引なし
1階ホール受付にて前売券(1プログラム)2,500円
絶賛販売中

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます
最新情報はホームページをご確認ください

支援会員

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、
次の企業・団体に支援会員としてご入会いただきました。

《特別賛助会員》
キヤノン(株)
(株)資生堂
全日本空輸(株)
(株)ニコン

《賛助会員》
キヤノンマーケティングジャパン(株)
ゲッティイメージズジャパン(株)
大日本印刷(株)
東急建設(株)
凸版印刷(株)
富士フイルム(株)

《特別支援会員》
アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
リコーイメージング(株)

《支援会員》
(株)アール&キャリア
(株)I&S BBDO
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アオイネオン(株)
(株)浅沼商会
旭化成(株)
(株)朝日工業社
朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(株)栄光社
(株)エージーピー
(株)ADKクリエイティブ・ワン
SMBC日興証券(株)
NHK営業サービス(株)
(株)NHKエデュケーショナル
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHKグローバルメディアサービス
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
(株)NHKビジネスクリエイト
エルメス財団
オリンパス(株)
(株)オンワードホールディングス
カールツァイス(株)
花王(株)
加賀電子(株)
鹿島建設(株)
(株)KADOKAWA
カトーレック(株)
神奈川新聞社
カメラショップ(株)
(株)カメラの三和
(株)かんぽ生命保険
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
キッコーマン(株)
(株)紀伊國屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三愛石油(株)
三機工業(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)サンライズ
(株)ジェイアール東日本企画
JSR(株)
JXTGホールディングス(株)
(株)JTB
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校／東京写真学園
シャネル(同)
(株)集英社
シュッピン(株)
(株)小学館
城西国際大学メディア学部
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)スタジオアリス
(株)スタジオエムジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコーホールディングス(株)
双日(株)
ソニー(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
第一法規(株)
(株)ダイケンビルサービス
台新國際商業銀行
大成建設(株)
(株)大丸松坂屋百貨店
大和証券(株)
(有)タカ・イシイギャラリー
(株)髙島屋
(株)宝島社
(株)竹中工務店
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)TBSテレビ
デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム(株)
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
電源開発(株)
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
東急(株)
(株)東京印書館
東京海上日動火災保険(株)
東京空港交通(株)
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)東京スタデオ
東京造形大学
東京綜合写真専門学校
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京都競馬(株)
(株)東京ドーム
(株)東京ニュース通信社
(学)専門学校 東京ビジュアルアーツ
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビジョン(株)
(株)東芝
東宝(株)
(株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)トキワ
(株)徳間書店
戸田建設(株)
トヨタ自動車(株)
(株)トロンマネージメント
(株)ニコンイメージングジャパン
日油(株)
日活(株)
(株)日経BP
日光ケミカルズ(株)
(株)日本カメラ社
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
日本航空電子工業(株)
(株)日本廣告社
(公社)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
(一社)日本写真文化協会
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
(株)日本デザインセンター
日本テレビ放送網(株)
(株)ニッポン放送
日本レコードマネジメント(株)
日本ロレックス(株)
(株)ニューアートディフュージョン
野村證券(株)
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディアパートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハースト婦人画報社
(株)ハーツ
パナソニック(株)
(株)パラゴン
ぴあ(株)
北海道 写真の町東川町
光写真印刷(株)
(株)ピクトリコ
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
(株)プリンスホテル
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
毎日新聞社
(株)マガジンハウス
丸善(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
(株)三越伊勢丹 三越恵比寿店
三菱地所(株)
三菱製紙(株)
三菱倉庫(株)
三菱UFJ信託銀行(株)
(株)ミルボン
武蔵大学
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・オブ・アート
(株)ワコール
(他3社)

(株)=株式会社、(相)=相互会社、(有)=有限会社、(学)=学校法人、(公社)=公益社団法人、(同)=合同会社、(一社)=一般社団法人

(令和2年8月末日時点・五十音順)

2F SHOP
ミュージアム・ショップ

NADiff BAITEN

展覧会が開催されるたびに品ぞろえもディスプレイも変わるミュージアム・ショップ。国内外の写真集や関連書籍の充実度は専門美術館ならではです。9月22日まで開催の「森山大道の東京 ongoing」とのコラボグッズをはじめ、展覧会関連の商品も豊富に取りそろえています。東京都写真美術館オリジナルグッズもございますので、ご観覧の後などぜひお立ち寄りください。

TOP MUSEUM　コレクション・ポストカード　各150円(税抜)
TOP MUSEUM　ピンホールカメラ　1,297円(税抜)
色と形と言葉のゲーム　4,150円(税抜)

詳細ページはこちら▼

営業時間／10:00-18:00　TEL／03-6447-7684
定 休 日／毎週月曜日 ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

1F CAFE
カフェ

MAISON ICHI

BOULANGER・PATISSIER・TRAITEUR・CHARCUTIER

LUNCH MENU (11:30-15:00)

本日のキッシュ(自家製パン付き)　1,200円
季節のラザニア(自家製パン付き)　1,200円

自家製パン、ドリンクはお持ち帰りできます
自家製バゲットのピザ　380円～
ぷるぷる生プルマン　1斤 480円　1.5斤 680円
自家製レモンシロップのレモネード　445円
ジュース・アルコール類もあります。
メニューは予告なく変更される場合があります。(価格はすべて税抜)

詳細ページはこちら▼

営業時間／11:00-18:00　TEL／03-6277-3862
定 休 日／毎週月曜日 ほか
(美術館の休館日に準じます。詳細は裏表紙をご覧ください。)

SCHEDULE / スケジュール

展覧会・イベント・上映の最新情報は、
topmuseum.jpまたはこちらへ ▶

	3F	2F	B1F	1F
2020 9	森山大道の東京 ongoing (収) 6.2(火)–9.22(火・祝)	あしたのひかり 日本の新進作家 vol.17 (企) 7.28(火)–9.22(火・祝)	エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク インターネットアートへの再接続 (収) 8.18(火)–10.11(日)	衝動 ー世界で唯一のダンサオーラー ロシオ・モリーナLIVEー カイーダ・デル・シエロ 9.12(土)–9.25(金)
10	TOPコレクション 琉球弧の写真 (収) 9.29(火)–11.23(月・祝)	生誕100年 石元泰博写真展 生命体としての都市 (収) 9.29(火)–11.23(月・祝)	写真新世紀 2020 10.17(土)–11.15(日)	過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい 写真家 森山大道 9.12(土)、13(日)、19(土)、20(日)
11				
12	日本初期写真史 関東編 幕末明治を撮る (収) 12.1(火)–2021.1.24(日)	瀬戸正人(仮称) (企) 12.1(火)–2021.1.24(日)		バーンスタイン&ウィーン・フィル ベートーヴェン 全交響曲シネコンサート 12.1(火)–12.18(金)
2021 1				
2	第13回恵比寿映像祭 2.5(金)–2.21(日)			

(収)収蔵展　(企)企画展

「ぐるっとパス 2020」の詳細はこちら ▶

東京都写真美術館　年間パスポート「TOP MUSEUM PASSPORT 2020」のご案内

当館の展覧会を無料または割引でご観覧いただけるお得なパスポートです。

販売期間:2020年9月30日(水)まで　有効期間:2021年3月31日(水)まで
販売価格:2,700円(税込)　販売場所:当館1階総合受付

年間パスポートの詳細はこちら ▶

スケジュール内の(収)は無料、(企)は4回まで無料、その他は割引料金となります。特典の詳細は、当館ホームページのご利用案内よりご確認ください。

割引料金について

割引対象

展覧会を割引料金にてご観覧いただけます

各種会員の方　観覧料が2割引
- □JRE CARD
  (2018年7月2日にアトレビューSuicaカードより移行のクレジットカード)
- □MIカード(三越伊勢丹グループのクレジットカード)
- □ウエルカムカード(訪日外国人向けの割引カード)
- □当館映画鑑賞券提示者
- □東京都歴史文化財団他館友の会、年間パスポート会員
- □JR東日本「大人の休日倶楽部」カード

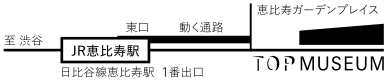
無料対象

展覧会を無料でご観覧いただけます

- □小学生以下
- □障害者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □被爆者手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □愛の手帳・療育手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □精神障害者福祉手帳提示者及びその介護者(2名まで)
- □東京都内在住・在学の中学生

※教育活動(スクールプログラムなど)で当館をご観覧希望の生徒と引率者は事前申告が必要です。当館までお問い合わせください。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 Tel.03-3280-0099　topmuseum.jp

開館時間　10:00–18:00 ※入館は閉館30分前まで。
休 館 日　毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)最新情報はホームページをご確認ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ2020」102号 □発行日:2020年9月7日／企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 企画広報 □印刷・製本:株式会社公栄社 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2020 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、原則として消費税込みの価格です。事業内容は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

文化でつながる。未来とつながる。
Tokyo Tokyo FESTIVAL